

福祉ニュース

絆～加茂

発行・編集

社会福祉法人

川西市社会福祉協議会

加茂小地区福祉委員会

委員長 藤田 喜志夫

2016新春のお祝い申し上げます

新年、明けましておめでとうございませう。

地域の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃は、加茂小地区福祉委員会（以下地区福祉委員会と称す）及びコミュニティ福祉委員会の福祉事業に、ご理解、ご支援及びご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成27年度より地域分権制度が導入され、地区福祉委員会は加茂小学校区コミュニティ推進協議会の傘下となり、新しいコミュニティ組織の福祉委員会（従来は福祉部）として参画する事になりました。

当面は、地区福祉委員会とコミュニティ福祉委員会との共存の形で継続して参ります。



「地域分権と地域福祉について」

加茂小地区福祉委員会

委員長 藤田 喜志夫

組織構成や財源確保等を考慮すると、地区福祉委員会は福祉委員で構成、財源は市一括交付金、川西市社会福祉協議会の事業助成金を合わせて、地区福祉委員会活動推進事業収入として計上しています。

川西市福祉活動事業として「福祉デザインひろばづくり事業」が推進され、その事業は7項目に分類されています。概ねこの項目を地区福祉委員会が担い、新規事業（居場所づくり・世代間交流）はコミュニティ福祉委員会（理事会で構成）が担当して活動を推進しています。

平成25年度にスタートした第三次地区福祉計画（五ヶ年計画）は、早や中間期を迎えました。年度事業計画に基づいて積極的に推進して参りましたが、未だ手つかずのテーマもあります。その中でも人材育成、

確保について、一番悩んでいます。平成28年度は福祉ボランティア支援者を募るアイデアを、積極的に検討して参りたいと思います。

「平成27年度重点項目」

一、福祉ガイドブックの作成と全戸配布。

一、居場所づくりの開設。

等は地域各種団体で構成された「福祉ネットワーク会議」で数回審議を頂き、平成27年度中には完成する運びとなりました。どうなるか不安もありますが、お互い助け合い、推進してまいります。

最後になりましたが、これからも地域皆さまの積極的なご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますと共にご健康及びご多幸を祈念申し上げます。まして新年のご挨拶いたします。



助け合いで暮らしの良い街づくりを

「絆」で深めましょう！

加茂小学校区コミュニティ推進協議会

会長 白崎 邦男

加茂小学校区内住民の皆さま、
新年、明けましておめでとうござ
います。

新春を迎え、地区福祉委員の皆
様を初め、地域の皆様のご健勝
とご多幸を、心よりお祈り申し上
げます。

本年度より、地域分権制度を取
り入れ、従来の諸事業に新規事業
を加えて「安全・安心な住み良い
街づくり」を目指してスタート致
しました。

日頃はコミュニティ活動に対
しまして、ご支援、ご協力を頂き
誠にありがとうございます。

今後とも、よろしくお願い申し
上げます。

さて、これからは、少子高齢化
が更に進む中で、福祉関係の役割
が益々重要になって参ります。

高齢者対策として、居場所つく
りの検討を進められ、その他事業
においても、着々と成果を上げら
れました。

「絆」の輪が広がり、助け合いで
暮らしの良い街づくりへ、更なる
基盤づくりに、コミュニティと連
携して、地域にとつてなくてはな
らない地区福祉委員会へと、発展
されますようご祈願申し上げ、年
頭の挨拶と致します。



「一人はみんなのために、みんな
は一人のために」。行事を企画し
て、そこにスタッフと参加者どう
しの出会いがあり、ふれあいがあ
り、人のつながりができます。
ほめられるためにやっているわ
けではないが、共に成果を喜んで
くれたり、ねぎらいの言葉をもら
えれば心があたたまるし、そこに
一体感が生まれます。

福祉活動事業を 支える苦勞談話

One for All
All for One

仲間を増や
す
1人60歩
100歩
1歩

副委員長 大田 正

「やっでもらって当たり前」と思
っているのが傲慢になります。
今にもにいる人とのひとときを
大事にしたいものです。
共助・それは「私」ではなく「私
たち」を大切にすることなのだ
と思います。

平成 28 年度前半

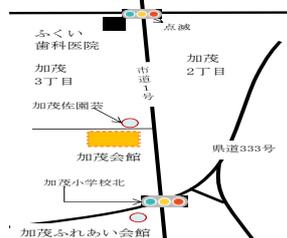
ボランティアスタッフ募集！

居場所づくり「・・カフェ」

【問合せ先】 加茂小地区福祉委員会

委員長 藤田 喜志夫 ☎757-0861

加茂会館・南花屋敷中央会館に開設準備中



加茂小地区「福祉ガイド冊子」発行に当たって

ひろば事業が導入され、その時「福祉のしおり」として、冊子を作成、発行しました。

そして数年後、福祉ネットワーク会議等に於いて、地域の「福祉ガイドブック」作成の要望の声があり、地域にお住いのすべての方々に配布するために、第2次見直し・第3次地区福祉計画作成過程で事業の見直し、財務の改善を行い、平成26年度に「社協ひだまり基金・共同募金事業」の助成金に応募しました。

そして、プレゼンの結果、助成金を得られることに繋がりました

平成27年度於いて、会員会費配分金及び助成金を活用しての事業を総会で承認されたのを受け、平成26年に引き継ぎ、平成27年度ネットワーク会議において本格的にネーミング、内容等の検討を重ねてきました。今後は、地域の皆さまにとってより役立つ冊子づくりをめざし平成28年3月末には発行・全戸配布できるように取り組んで行きたいと思っています。

加茂小地区福祉ガイドブック



《サブタイトル》

～一人はみんなのために、

みんなは一人のために～

加茂小地区
福祉委員会

あなたの社協会員会費が地域を支えています

川西市社会福祉協議会 地域福祉チーム 西本 裕子

私達がいつまでもこの地域で暮らしたいと望むとき、そこには住み慣れた場所があり、知っている人がいて、安心できる環境があると思います。

市社協は、そうした望みが叶えられるよう「暮らしつづける」想いが叶うまちかわにしの実現を目指し、市民の皆様と共に様々な福祉事業を推進しています。



“暮らしつづける” 想いが叶うまち かわにし

皆様からお預かりする会員会費は、その中でも特に地区福祉委員活動やボランティア活動推進事業などに充てられ、市社協事業において大変、重要な財源となっています。

またこの会員会費制度は、社協会員になることによって、一人ひとりが、地域福祉を自らの活動として受け止め、地域福祉活動に間接的に参加していただくという意味も持っています。

急速に進む少子高齢化によって福祉課題は複雑、多様化し、住民参加による地域福祉活動の推進が不可欠です。あなたも社協会員会費でその一翼を担ってください。

ひろばサロン会

～100 回記念を迎えるにあたり～

～地域分権により一括交付金で運営：地域にお住まいの方全員(子ども～大人)を対象～

南花安心コミ 毎月第 1 週(金) 10:00～



ここ安心コミュニティでは、平成 18 年 8 月第 1 回サロン会を開催して「くす玉」を割りました。以来「年 10 回」一度も休むことなく続けて参りました。この間福祉委員、民生委員、ゲスト出演の方々、又なによりも笑顔と元気で参加される地域の皆さんに「ありがとう」。多くのお力添えでサロン会行事が継続出来ました事を喜んでおります。

7 月には 100 回を迎えます。この記念すべき日に地域の輪がより大きく育つことを願い、再度「おおくす玉」を割ってみたいと今から楽しみにしております。 第 1 拠点 井上 昭子

南花屋敷会館 毎月第 3 週(木) 14:00～



最初は、歌、ゲーム、折り紙、ドリル、そして、ゲストを迎えての三味線、銭太鼓、人形劇等でしたが、高齢化、住宅密集(騒音)の関係で川西体操、認知症予防ゲーム、おしゃべりタイム(お茶)へと変遷してきています。

これからもサロン会のテーマづくりに悩みますが、出前講座「終末期医療について」のお話を企画した時 35 名の参加者ありました。このことをヒントに 150 回を目標に、スタッフと参加者共働で南花屋敷スタイルを築いて行きたいと思っています。 第 3 拠点 久家 和子

旧ふたば幼稚園 毎月第 2 週(水) 14:00～



福祉活動に参加させて頂き、まだ 2 年弱ですが、ひろばサロン会開講 100 回記念を迎えられた事は大変喜ばしく思います。

これからも地域の皆さまとのふれあいを大事に、又地域での自立生活を支えていけるように、皆さまのご協力を得ながら活動して行きたいと思ひます。

サロン会が益々発展して参ります様、ご支援頂くと共に、積極的にご参加を宜しくお願ひ申し上げます。 第 2 拠点 加地 三従

加茂会館 毎月第 4 週(水) 14:00～



先日、100 回目を迎えたサロン会。

平成 18 年 8 月 23 日が第一回目だったそうです。それから今日まで、皆様のご参加があったお蔭で、無事 100 回目を迎えることが出来たとスタッフ一同とても嬉しく思っております。

これから「150 回、200 回」といつまでも皆様とふれあえる事を、皆楽しみにしております。

どうぞ末永く、サロン会をよろしくお願ひ致します。 第 4 拠点 清水 典子

「認知症サポーター養成講座」現状と報告

加茂小地区キャラバンメイト会の大切な任務として、地域内で認知症サポーターを養成することがあります。

平成27年度は左記の通り開講実施いたしました。

- 百寿会会員の方
 - 三和自治会会員の方
 - 東雲自治会会員の方
 - 寿会会員の方
 - 高砂会G&G部会員の方
 - 加茂小学校三年生対象
- 尚、加茂小学校三年生対象の講座は定期的に実施して行く予定です
- 受講して下さった皆さまからは大変勉強になったと喜んで頂いています。
(尾上 豊子)

ほのぼの会

「現状&将来」への願望

ほのぼの会は発足より20年近く、先輩から受け継がれてきたボランティア精神があります。

活動の中で数多くの人達との「出会い&交流」があつて、支え

たり支えられたりとの関係が大切に思つて、こうした関係が地域に定着することを願います。

何度か存亡の危機もありながら、現在に至っていると聞いています。現在会員数は、一部15名、2部21名と減少の傾向にあり、高齢化も進んでいます。将来ニーズが増えるであろうことを考えると、憂慮すべきことだと思つています。



生活時間にゆとりのある方、ボランティアに関心のある方、一度ほのぼの会で体験されませんか。そして賛同していただき、ご入会いただければ有り難く思います。

(片山 康子)

「かるがも」

赤ちゃん交流会

お母さん同士の交流が一番の目的です。皆さんが赤ちゃんを通して、より豊かな子育てができるよう願っているのです。

保健師さん、子育てで先輩のボランティアも参加していますので、小さい心配事もどんどんお話しして下さい。

月毎に親子遊び、親子体操、身長体重測定、育児相談、赤ちゃんマッサージ等行っています。

お母さんたち、和気あいあいとお話なさっています。ご参加をお待ちしています。
(瀬戸 土子)



【日時】 毎月第1水曜 10:00~11:30
 【場所】 加茂ふれあい会館
 【対象】 生後4ヶ月~12ヶ月のお母さん
 【スタッフ】 保健師、地域ボランティア
 【問合せ先】 川西市保健センター
 電話 758-4721

青少年補導委員の

活動と青少年の現状

南地区は20名の補導委員で、月に昼間二回、夜間二回のパトロールを行っております。

活動の基本は、街頭での不良行為や非行の恐れのある青少年へ「声かけ」を行うことです。

又、児童生徒の安全確保に關しましては、特に登下校時に於ける子供の安全確保を図る為、地域住民の皆様のご協力、各種団体との連携を深めながら地域社会全体で子供の見守りに力を入れて行きたいと思つています。

最近のいじめ、殺人事件の背景にはインターネットの普及が大きいようです。使いかたを誤ると大変危険です。「スマホ依存」になり、子供の深夜の歩きにつながるケースも少なくなっています。// どうしてこんな遅い時間に // 危ない // と異変に気づいたら「どうしたの?」「何しているの?」と優しく「愛の一声」をかけて下さい。

// おせっかいでもいいのです //
(吉岡 由美子)

さつま芋掘り収穫祭

平成27年5月、地元農家の畑をお借りして、さつま芋苗植えを体験しました。美味しいお芋が実りますように、心を込めて植えました。

7月と8月には草取りを3回しました。畑の周りを綺麗にし、心地よい汗をながしました。青々と育った芋のつるを少し持ち帰り、煮物にして美味しく頂きました。10月、待ちに待った収穫の日が来ました。どんなお芋にあえるのか、「大人も子ども」も自然と笑顔がこぼれます。今年も大きなお芋が実っていました。

それを蒸し芋にして下さり、美味しいお芋を頂きました。世代を越えて地域の方が集まり、協力し合う、よい経験になりました。お世話を下さった方々、本当にありがとうございました。

佐々木 揚子



天候に恵まれた小春日和の11月11日ふれあいサロン会が加茂幼稚園で開催されました。

この行事は、加茂小地区内の人暮らし高齢者と園児がふれあい交流を深める事を目的に毎年一回行われています。

内容は、三歳児から年長組の園児さんの可愛い歌声を聞かせて頂きました。その後、スキンシップ、昔遊び等に興じ昼食をはさみ、午後から園児さんと一緒に「ひまわり座」のお二人による南京玉すだれ、腹話術、楽しいトークで園児さんも大喜び、高齢者の方も爆笑で楽しい一時を過ごしました。まさにふれあいサロン会になりました。

三浦 幸子

園児&高齢者

ふれあいサロン会

花花たんぽぽ



私は加茂小地区福祉委員会事業の一環として行っている手話サークルに在籍しています。月に一度の手話学習ですので習っては忘れ、習っては忘れの繰り返しで、なかなか手話そのものを習得する事は厳しいですが、月に一度お会いする障がい者の方達の明るさに私の方が一杯、一杯の元気を頂いています。

私たち健常者は見えて当たり前、聞こえて当たり前前の生活ですが聞こえない環境の中での日々の生活を想像する時、どんなにか不安で心もとないことではと云うことに気付かされます。

私たちに何か出来る事があるのではと思いつけた時期もありましたが、今は自然に健常者の方達との交流と何の変りもない、お付き合いさせて頂いています。

年に一度のハイキングを企画しています。アウトドアという開放感もあっていつもと違った親近感を覚え、お互いの距離もぐっと縮まる気がしています。今では障がい者も健常者も心は同じ。つたない手話でも喜びも悲しみも、そして感動も共有出来ると強く実感しています。

河原林 喜美子